

大きな” うねり” の中で

升 島 努

腰抜け外交とフィロソフィーも戦略もない政府のお陰で、アメリカに日本の経済を好き放題に壊され、それでも意志表示をしない、できない日本。石原都知事に言わせるとアメリカ隷属国の日本。その日本が、くだらない政治の駆け引きのつけを、大学に向けてきました。金融ビッグバンの次は、大学ビッグバン？ 25%か30%か、自由党と一緒にになったから、やらなくてはと、公務員の定数減を達成するそう。それなら一番多い大学・研究所の定員を独立行政法人にするのが一番手っ取り早いとか。ならば、公務員資格を取り上げ、その代わりに、給料も何も能力主義にしてくれば良いものを、公務員的身分は保障とか、そんなのありがた迷惑極まりない。教職員が首切れないで、どうして大学の質を上げれるんね。数だけ合わせれば、良いんですか？これって同じだけお金要ると違いますか？一方、不景気で雇用創生を目指し、ベンチャーをやれやれと。やって良いですかと言うと、いや君は公務員だから、社長はダメ、役員もだめ、コンサルタントもだめ、アドバイザーという名前ならOKとか。 どうして、この国、中身ないの。

そんなこんなを、大きな「うねり」というのもおこがましいけれど、大学もこの事で騒々しくなってきました。良いけどね、やる気のない職員には刺激くらいにはなっているようで……。そのお陰で、今やどの大学も21世紀マスタープランが大流行。ところが広大の21世紀マスタープランが余りにお粗末で、それにあきれた情報メディア委員会の委員長が私にワーキンググループを作って、メディアを逸脱しても構わないから、もっとまじなマスタープランを作製して欲しいと言われて、一生懸命書いたものを、最後に載せておきます。言われてまず考えたのは、変化の激しいメディアの将来の姿の予測でした。それが決まれば自ずとやることは決まるのです。後はどれだけ現状認識と企画力があるかです。いろいろとWGの委員に文面を逐次送っても、返ってくる返事は、結構とかマイナーな事、中で、教育学部の利島学部長は、主に教育分野での基本的な考え方の再考を、正法地委員長は、全般に渡る語句の使い方や自分の考え方の追加を入れて下さったのには助かりました。これを、久しぶりに本気になった作品として、広大に贈る言葉として、答申しました。ご笑覧下さい。

さて、もっと柔らかい話に戻りたいと思います。

今日も科研費を書いています（いや、例によってまだ書けないと引き延ばしています）。今年は初めて、科研費が一つも当たらなかった4月5月を迎えました。その時の気分はとってもブルー、限られた教室のお金がいつも頭をよぎるつらい11年度の幕開けでした。無理ありません。新しい生命解析法となりうる科研費申請へのネタが何も無いんですから。いつのまにか、教室はこんな所に来ていたのです。

ところが、その後、科研費の追加募集が昨年あり、それに応募していたのを忘れていま

した。これも、雇用創生の一貫で、地域企業と何か考えて、新しい産業か、産業の活性化をなささいとの科研費でした。どちらかと言うと僕の特異分野です。たまたま日本メディカルサプライさんとのおつき合いが生じていましたので、お願いして出していたものが、普通の科研費に遅れて2カ月、発表され、広島大学13件中の2件に選ばれていたのです。これは、一千万を越える高額で、お陰で、随分と教室運営が楽になりました。

でも、この事は、とても良い教訓になり、いかに挑戦がないと、滅びるかを改めて思い知ることとなりました。意を決して、そのお金がないときに発注した80万円の装置の本体（殻だけ）に今は自作でこまごまとした自作のアタッチメントをつけ、世界でも初めての装置を今作ろうとしています。その後は・・・、内緒です。それは、多分本当にオリジナルな方向の、世界で初めてのアプローチだと思っていますから。

細胞も小澤君にRBL（これはもともと彼がNIHから持ってきたもの）とMIN6を渡し、当教室は、それ以外の系でアプローチをし、彼との今後のすみ分けをしました。特にRBLの世界は、教室のビデオ顕微鏡でやった仕事とは言え彼が切り開いた分野です。

一方、教室は、イスラエルの大学の科学者の方との研究が始まり、順調に走り始めています。彼女は、当教室が物理にベースを置き、方法論展開を中心に行っていることに興味を示し、彼女の今までの免疫薬理学的な経験と成果を合わせての、地球の裏側との共同研究が順調に進んでいます。細胞と細胞のコミュニケーションを視野に置いた免疫学やアレルギーの研究を展開しますが、それ以上は、彼女との契約で、現在はお話できません。イスラエルの大学は、大学が会社を持っていて、その会社が彼女の権利を守ります。その契約が企業相手を想定して作られたもので、余りにも一方的でしたので、これは共同研究なので、同じ事が、こちらにも言えると言って契約しました。またそれをすんなり受け入れるところが面白い所です。従って、守秘義務が生じています。他にも守秘義務があるのは、島津製作所、そして、契約はありませんが、大切に守りたいのは、地元の企業の方々との幾つかの共同研究です。特に地元の企業の方々とのおつき合いは、熱意が感じられ、また感謝して下さるだけうれしく、それだけに辛いときもありますが、とても楽しい時間です。今まで言われた事もない事を社長が言って下さって、心の中で涙した事もありました。

職員の若い二人も、元気に順調にやってくれているのではないのでしょうか。

僕の厳しい指摘や怒りの本質的な意味が分かってくれて、大きく成長してくれることを期待しています。

今年から、3年後期からの学生配属が実現しました。これは、4年生やM2の人の引継をスムーズに行うことや、何よりも3年生へのアーリーイクスプージャーとなればと、私が先導して実現させた制度ですが、院生の多いところは、それよりも人数の多さが気になることかもしれませんね。でも、うちの3年生は、よその教室とは違い、4年生が病院や薬局実習に3週間出ているこの時に、ある程度のイロハを教わって、お姉さん、お兄さんの帰りを今や遅しと待っている所ではないのでしょうか。先輩が3年に渡って教室には居て、情報豊か？に研究を楽しんでくれればと思います。また、これからは、半年ごとに、学

生がテーマや指導指導者を変えても良い制度を取りたく思っていますので、指導者の尾島、新垣、清水君は、学生諸君に興味を持って貰え、研究の楽しさが分かって貰えるよう指導の競争もして下さい。自分も選ばれる指導者の一人に入れたいところが、教授の狭い所です。でも、イスラエルの先生にも言いましたが、今、はっきりと教室の行くべき道が見えて来ました。

プライベートには、今色々な方々との交際が広がっています。そういう歳になったのでしょうか。特に地元の企業の方々とは、楽しいおつき合いが広がり、中でも色々な人生を感じ、学ばせて戴いている社長とその仲間の方々に出会えたのはうれしい限りです。また、過去を語る人間になったのでしょうか、高校や中学の同窓会にも出てみますと、皆歳頃か、社長や校長や、そこそこの責任者になっており、話が弾みます。つきあいでとうとう今まで嫌っていたゴルフまでさせられるようになり、定席ブービーをつとめ、トップからのオーバー一番手（最後はゲストで、取らないので）の金を召し上げられています。でも、先日、ショートホールまぐれのワンオンで、2000円取り戻した時は、気分良かったな。今度こそと思うのですが、それは、また来年のいつか忘れた頃にやるゴルフで、その時は忘れています。うまくなれる訳がないですね。でも、アイアンは大分良いんだけど、ドライバーが全然当たりません。的が小さ過ぎるよね大体。では、今、確実に勝てるスポーツは？？それは、教室で行くゴーカートでしょう。ねえライバルの中島君。

最初の先生が東京へ移られて以来、中断していたフルート、NHKの教室で月2回だけです。再開しました。今度の先生はレベルが高く、しかも集団レッスンで人前で吹くので、恥のかき通しです。日本画は、ようやく、玉ねぎ、胡瓜、さざえの習作から、作品を初めて良いとのお許しが下り、岩木山で見つけたブナ林の春を書いています。もう半年になるのに、仕上がりがませんが、3月までには、もう1作位書きたいと思っています。なんせ売れっ子絵描き？で、既に、これから3作まで、注文がひやかして入っておりテーマが決まっています。最後に、先日サンフランシスコの妹宅から見える、夜明けのサンフランシスコダウンタウンの景色のスケッチを、カット代わりに入れておきます。丁度、秋晴れの今の日本のような空の下、気温だけ若干高い感じの天気が続くこの地で、庭先から、新鮮な空気を吸いつつ朝7時から30分ほどで書いた風景です。実は、今年7月に兄がガンで亡くなりました。それ以来、自分も本当に歳を、そして人生における死を意識する事が多くなりました。この妹との時は、その悲しみを分け合う時間でもありました。

今の目標、それは、自分で新しい質量分析機を作り上げることです。今、黙々とペーパーワークの合間に闘志を燃やしながら進めようとしています。研究が自分の手で進められる、そのうれしさをかみしめながら、雑用でくじけそうな自分と戦っています。

皆さんもどうか、辛いことがあってもくじけないで、頑張ってくださいね。

最後に、続投の可否、投票ありがとうございました。続投となった今、今度は7年後に投票とし、やはり最初に自分で決めたやり方で自分の戒めとしたいと決心しました。

平成11年11月 記

パナマにて Vasquesさん夫妻と再会

今井日出夫先生が指導された当時の留学生Rafael Vasquesさんは、今パナマ大学の理学部分析化学センターの担い手として、パナマで活躍しておられます。彼が、10月の始め、パナマ化学会年会をpresidentとしてオーガナイズするのだけれど、講演に来てくれないかとの事、日本大使館のサポートは結局ありませんでしたが、喜んで行かせて貰いました。彼の晴れ舞台を盛り上げれば、と日本からビデオプロジェクター持参で、初めての地、アメリカ・アトランタ経由フロリダ、キューバ上空を経由して、不安一杯でパナマの空港に降り立ちました。思ったほど、蒸し暑くはなく、今は雨期、ちょうど梅雨明けの初夏の日本の感じと言ったら良いでしょうか。違うのは、たまにすごい勢いで降る雨、かなりすごい時があります。バスケスさんが色々と手配して、現地では、日本では想像もつかない様な事ばかり、恐縮することしきりです。学長、副学長へのご挨拶、どうした訳かテレビカメラが回っています。その後、パナマの科学省に当たるヘッドとの会見、在パナマ日本大使館 藤島大使との接見、大使が招いて下さった宮殿の様な大使公邸でのレセプション、JICAパナマ支所での所長との会見、しまいには、パナマのテレビ局2つでのインタビューなど、バスケスさんの夫妻の人脈が色々なトップの人達へつながっている事が分かり、驚きながら、ふーふー言いつつ、バスケスさんがアレンジしてくれたハードスケジュールをこなしました。私は見て居ませんが、最近またテレビで出たらしく、バスケスさん曰く、今度パナマに来たら、サインを求められるだろうとか。忘れられた事にまた行きますね。-----下、サンフランシスコ湾の向こうにダウンタウンを見る-----



橋はサンフランシスコ・ベイブリッジ、ゴールデンゲートは右手前の丘の後ろです

46
1998 Oct. '99

パナマ運河が100年間もアメリカのものだった事、皆さん知っていますか？ようやく今年、悲願であったパナマ運河の所有権がパナマに戻されます。そのせいか、パナマのライフスタイルはとてアメリカナイズした面があります。ドルをそのまま使い、車は、半分以上が日本車ですが、みんな車なしではやっていけない様な生活、交通渋滞がよく見られます。しかし、それ以外は、しっかりとパナマを持っており、言葉は、研究者の方でも大半は英語を話されない方が、特にご年輩に多い感じがしました。パナマの食事は、日本人にはそんなに違和感なく、スープもおいしく、鳥のスープにじゃがいも、そして、少しぴりっとする野菜の入ったスープは、日本で出されても分からない位、なじみの良いものでした。ディナーでパナマの民族ダンスショーを見ていたら、その美しい踊り子さんから、指名され舞台上がって、民族ダンスをさせられたのには、いやはや赤面もの、今回の滞在中、最もあがった一時でした。ミスユニバースが、先年パナマから選ばれたとか、なるほどしかりと思いました。行くまで忘れていた、スペイン語の国、スペインの血が感じられます。

バスケスさんが、久しぶりにこの国で再開して見せたパナマ化学会の年会、従来は40人位なのが、北海道位の面積のパナマ全土から、予定の200名をオーバーしての参加者を迎え、大成功の様でした。会場は、パナマの地方都市のエキゾチックなホテル、外はパナマを貫く唯一の道路を砂煙を立てて沢山の車が行き交い、その横のホテルに泊まり込んで、まじめな学会を2つの講演会場とポスター会場で行っているのです。パナマのエネルギーを感じる外界と、パナマのインテリジェンスを感じる内部、どちらも、熱気を感じました。

バスケスさんの奥さん、レリアさんも、彼の活動を陰に日向にサポート、教育活動を続けるキャリアウーマンとして活躍中です。日本で生まれた長女マリちゃんは、今パナマ大学の医学部で、成績優秀な飛び級学生として、勉強に頑張っています。

パナマには、コロン貿易自由区があり、そこのショッピングモールでは、ブランドがほとんど安く買えます。是非、一度、お越し下さい。

パナマでの長いはずの滞在が、あっと言う間に終わり、今は、様々な思い出を胸に、これからどういう風に、パナマの科学の推進に何かしらでも貢献できるのか考えています。

平成11年11月11日 記 升島